

子ども政策を重要視

9.11 知事選 政党に聞く

③



知事選についてのインタビューに答える喜友名智子代表=19日、那覇市内

喜友名智子氏

(立民党県連代表)

―争点は。

「経済をどう底支えするか。

コロナ禍で、観光業のように「支援がない」と憤っている業界もあり、声を吸い上げたい」

「未来への投資として子ども

政策も重要だ。他候補も教育費

無償化など子ども政策を主張し

ているが、そもそも国の教育費、

福祉の予算が不十分だ」

―玉城県政の評価は。

「首里城火災、豚熱、新型コロナ

ナ、軽石と難局に見舞われた中

で、沖縄振興計画をまとめた。S

DGsを振興に生かす点にこだわ

りを持ち取り組めた」

「子どもの貧困対策など女性

や福祉の政策で光の当たらなかつ

た部分に目を向けており、玉

城氏ならで好だ」

―危機対応への評価は。

「初めての事態でニーズにす

ぐ応えきれなかった部分もある

が、国の制度や予算を使い県が

できる限りの対策をし、課題に

道筋をつけて乗り切っている」

い対応を迫られたが、年度ごとに課を増やすなど組織強化し取り組んだ。従来の医療体制の脆弱さが今後の課題になる」

―米軍基地問題は。

「沖縄全体の基地負担軽減を

重視すべきだ。辺野古新基地に

注目が集まり過ぎて、全体の整理縮小の議論が進んでいない。

統合計画でも県内移設が条件に

なるおかしさが根底にある」

―他候補の政策について。

「給食費、保育費の無償化は、

子ども特区がなくても既存の制

度でできる。普天間飛行場の2

030年返還とは彼らの論理で

は30年までの新基地建設完成と

同義だ。軟弱地盤工事は難しく、

この主張は無責任だ」

―有権者にアピールを。

「玉城県政を継続し辺野古の

問題、人権的な政策、経済の在

り方を含めて地に足の着いた沖

縄をつくる」(聞き手=知事選

取材班・下地由実子)